

例年よりも長かった梅雨の後の連日の猛暑の中、新型コロナの影響で短くなってしまった夏休みもあっという間に終わりましたが、皆さんにとって、実り多き夏休みだったでしょうか。

2学期の始業にあたり「高校時代の学び」について話をしたいと思います。ノーベル物理学賞を受賞された 小柴 昌俊 博士は、旧制高校時代に「小柴は成績が悪いから、東大に進学しても、インド哲学科くらいしか入れない」と話す教師の雑談を偶然聞いたことから発奮し、物理学科に入学したという逸話を持っている方ですが、その小柴博士の著書『やれば、できる。』の中で、博士は、勉強には2通りあると言っています。

一つは、学校でのテストや入学試験のための勉強で、博士は「受動的な認識力」と言っています。もう一つは、自分で考えた何かについて研究や仕事をすることで「能動的な認識力」と表現しています。そして、人間の総合的な認識力は「受動的な認識力」と「能動的な認識力」の掛け算で決まると言っています。博士は、受験勉強だけをしていても大成しないし、また、数学は嫌いだからと受験勉強をしないでいると、社会に出てから、いくら他のことを自分で考えて勉強していても、人間の総合的な認識力は低いと言っています。

高校から大学、そして社会に巣立っていく過程で、その認識力の獲得のウエートは「受動的な認識力」から「能動的な認識力」へと移っていきます。そして、その過程の中で「学問の楽しみ」を知るようになります。「知識を得る」「知恵がつく」ということは、本来楽しいもので、「学問をする」ことによって得られる驚きと楽しみは何物にも代えられません。

皆さんも、高校時代から「受動的な認識力」である受験勉強や、「能動的な認識力」である、自ら興味・関心のある研究・学問に積極的に取り組み、高校時代ならではの学問の楽しみを体得して欲しいと思います。そのためには、どの教科でも、どの分野でもいいですから、自分の興味のあることを仲間と一緒に探求し、語り合っ欲しいと思います。本校のあちらこちらで、さまざまな学問や研究に関する話題が聞こえてくることを心から期待しています。

また、2学期は、特に、3年生にとって大切な時期です。「自らの人生は自らで切り開く」という、強い決意を持って全力で進路実現に取り組んでください。皆さんの奮起を心から期待しています。

最後に、松下幸之助は「どんなに悔いても過去は変わらない。どれほど心配したところで未来はどうなるものでもない。今、現在に最善を尽くすことである。」と言っています。

9月1日には学校祭が始まります。新型コロナ感染予防に努めながら、先輩後輩、級友が互いに最善を尽くし、藤島らしい学校祭を作り上げてくれることを期待しています。

では、2学期も挨拶と笑顔でスタートさせましょう。